

健康だより

虹の薬局

☎ 0952-32-2077

虹の薬局多久店

☎ 0952-71-2087

第106号 2024年 9月

定期的な目の検診は受けていますか？今月のテーマは「緑内障」です。
緑内障は自分では気づかないうちにゆっくりと視野が欠けていく目の病気です。
早期発見の鍵は定期的な目の検診です。40歳を過ぎたらまずは検診を受けてみましょう。

緑内障の症状



緑内障は、目と脳をつなぐ視神経が何らかの原因で障害され、徐々に視野が狭くなったり、欠けたりする病気です。視野が欠けると言っても視界が暗くなるのではなく、ぼやける、霧がかかったように感じます。しかし、通常は両目でものを見ているため、片方の目の視野が欠けてきても、もう一方の目が補ってくれます。また、脳の働きとして見えていない部分を推察して補う場合もあるため、視野の変化に気づきにくくなります。

原因と種類

正常範囲：10~20mmHg

確実な原因は分かっていませんが、目の硬さである「眼圧」が高い状態が続くと、目の奥の視神経が障害されやすくなります。しかし、眼圧が高くない人にも緑内障が少なくないことから、眼圧以外にも緑内障の原因があると考えられています。

続発緑内障：目の炎症やけが、糖尿病や脳疾患、ステロイド点眼薬による副作用など、何かほかの原因で眼圧が上昇します。

原発緑内障：**閉塞隅角緑内障**と**開放隅角緑内障**に分けられます。一般に多いのは開放隅角緑内障です。開放隅角緑内障は目の中の水(房水)の出口である隅角が広く、眼圧上昇は軽度で、視野障害の進行なども通常はゆっくりであると言われています。また、眼圧が正常範囲内である正常眼圧緑内障も開放隅角緑内障に含まれます。対して閉塞隅角緑内障は、隅角が閉塞し、急激に眼圧が上がることもあるため、治療が遅れると短期間で失明に至ることもあるとされています。

上記以外に、生まれつき眼圧が高い、子供の時から眼圧が上がる
発達緑内障、小児の続発緑内障があります。



緑内障の診断に必要な検査



- ① **眼圧検査**：直接、目の表面に測定器具をあてて測定する方法と目の表面に空気をあてて測定する方法があります。
- ② **眼底検査**：視神経の状態をみるために目の奥の検査をします。視神経が減ると、目の奥にある視神経乳頭の中心部のへこみが大きくなります。
- ③ **視野検査**：視野の欠損(見えない範囲)の存在の有無や大きさから緑内障の進行の具合を判定します。

その他にも緑内障の種類を決めるために、目の上にレンズをのせて隅角を観察する隅角検査や、角膜や結膜などの目の前の部分を観察する検査もあります。

治療方法

重要

一度減ってしまった視神経は元には戻りません！
視神経をそれ以上減らさないようにすることが治療の原則です。



① 点眼薬による治療

眼圧を下げる効果のある目薬を点眼します。現在たくさんの種類の目薬がありますが、眼圧を下げる効果や副作用をみながら複数の点眼薬を使用したり、別の薬に変更したりします。また、眼圧が正常範囲内に保たれていれば良いのではなく、その人の何も治療しない時の眼圧から、治療によってどの程度下げられるかが重要なポイントとなります。もともと眼圧が高くない人でも眼圧を下げることによって、病気の進行抑制が期待できます。

② 外科的療法による治療

点眼薬を使っても十分に眼圧が下がらない場合や視野の欠損が進行する場合にはレーザー治療や手術を行うことがあります。

早期発見のために 目の定期検査を！